

# 国の基金残高 16兆円超

昨年度末 19年度末から7倍に

経済対策の補助金などを積み立てる国の基金残高が、2022年度末に16兆円を超えたことが分かった。前年から4兆円近く増え、新型コロナの感染拡大が本格化する前の19年度末からは7倍になった。政治主導で「規模ありき」になりた予算編成で水をぐれしたためだ。それをまかなく多額の借金による。今後国民の金利負担がかかる」と感じる感がある。

**国民負担かさむ懸念**

年度の基金数は約14兆円。残高の合計額は、21年度末の12・9兆円から16・6兆円に増えた。この規模は、国が今年度当

期に新聞が、各都道府県の行政事業レポートの資料を独自に集計した。22

初計上した文教・科学振興費の3倍を超える。基金は「の3年間、コロナ禍からの経済回復を後押しする事業などに多用されている。通常の予算と違って複数年度にわたりて使える利点がある。一方、基金は一般社団法

人など首脳の外部組織が内閣府によると、基金は内閣府によると、基金の残高は16・19年度末には2兆円台で推移している。だが、コロナ禍に入

る。具体的な事業をみると、脱炭素社会に向けた「クリーンエネルギー」基盤(22年度末残高2兆2300億円)は、22年

度に26640億円を事業に使う予定だったが、実績は4分の1の632億円だった。20年度に設置された同基金の支出は、21年度も予定額のわずか1%にしかならなかった。

全体でもとも、事業の執行が国の想定を大きく下回っている。22年度は、実施期間の延長により1・1兆円上昇したガソリン代補助の基金を除くと、各都道府県は事業を予定していた計約4・1兆円の事業のうち、実際に支出されたのは48%の約2・0兆円だった。内

れるため、国庫や監督官

のチェックが行き届きにくい。

内閣府によると、基金

は、実施期間の延長によ

るため、積み増しされた

「国内投資促進基金」の原材料などの供給網を整備する事業

は、実施期間の延長によ

りした基金の予算措置の大半は、国の借金である

國債を財源としている。

足元では金利が上昇し

つづく。一般的に預金

の方が多いため、基金

よりも借金の金利の上昇

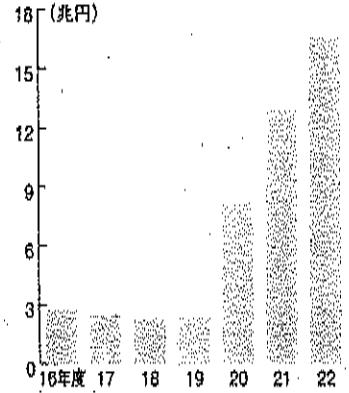
により、基金の預金措置

の大半は、国の借金である

れば、國庫は余計な金利

が設置した基金の残高が急増している。各年度末では内閣府資料から、

独立行政法人や一般社団法人などに設置した基金の残高



技術開発を促す「経済安全保障重要AI(人工知能)や量子技術などの研究開発を

1%にしかならずして、各都道府県は事業を予定していた計約4・1兆円の事業のうち、実際

に支出されたのは48%の約2・0兆円だった。内

に無駄な資金が積みあがれば、國庫は余計な金利を負担するといふことだ。しかしもたらかねない。

無理に使われさせられれば、非効率な事業を実施する

神山純一、大田同人